

日本語と中国語の複合動詞の語順¹

Word Order in Compound Verbs in Japanese and Chinese

望月 圭子

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

申 亜敏

(早稲田大学非常勤講師)

Summary

In Kageyama (1993), compound verbs of the “complement relationship” type (e.g., -oeru/-owaru, -tsukusu, -hajimeru/-hajimaru, -tsuzukeru/-tsuzuku, -sokonau, -machigau/-machigaeru, and -wasureru) are considered to be very productive types of compound verbs.

Like Japanese, Chinese also has a rich system of “verb +verb/adjective” type compound verbs which occupy a very important place in its verb system. The most prominent type of compound verbs, however, is the “antecedent event + resultant event” type of resultative compound verbs, e.g., compound verbs such as “dasi (hit-dead)”, “dapo (hit-broken)”, zoulei (walk-tired)”, and they are formed under a mechanism which is very different from the Japanese one.

This paper proposes the following typological difference between the Japanese and Chinese “verb + verb/adjective” type compound verbs, namely, for the most productive type of “verb + verb” compound verbs, the syntactic order of SOV in Japanese is preserved in the word order, but in Chinese, which has a SVO word order, because the verb can take various post-positional constituents, the highest priority is given to the “time sequence order.” Thus, the universal principle of “syntactic structure reflected in word structure” can be seen in the typical word order of compound verbs in both Japanese and Chinese.

1. 日本語と中国語の「動詞＋動詞/形容詞」型複合動詞

日本語において、生産性が高い複合動詞の型は、影山(1993)で提案された「補文関係」型複合動詞(e.g. ～終わる/終わる, ～尽くす, ～始める/始まる, ～続ける/続く, ～そこなう, ～間違う/間違える, ～忘れる等)である。

中国語も、「動詞＋動詞/形容詞」型複合動詞が非常に豊富な体系をもち、中国語動詞の

¹ 本研究は、基盤研究 (A) 課題番号 1922015 「多言語話ことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用」(研究代表者 川口裕司, 期間 平成 19 年～平成 22 年) の補助を受けた。

体系において重要な位置を占めている。しかし、最も卓越した複合動詞の型は、「先行事象＋結果事象」という組み合わせの結果複合動詞、例えば、<打死(殴り殺す), 打破(叩き壊す), 走累(歩き疲れる)>といった複合動詞であり、複合動詞形成のメカニズムが日本語とは大きく異なっている。

日本語と中国語における「動詞＋動詞/形容詞」型複合動詞の語順には二種類あり、一つは、句構造の語順が語構造の語順に反映される統語的語順原則であり、もう一つは、時間順原則である。日中語とも、この二つの原則に基づく複合動詞が存在するが、一方で、以下のような類型的相違点がある。即ち、最も生産性の高い「動詞＋動詞」型複合動詞の語順が、日本語においては、「SOV 語順」が語構造にも反映された、「目的語補文＋動詞」である一方で、SVO 語順である中国語においては、動詞の後にさまざまな後置成分が生起可能で、このため最も優先順位が高い語順が「時間順の語順」であるという相違がある。

2. 中国語の統語構造と複合動詞の構造

本節では、まず中国語の統語構造について紹介し、中国語の統語構造の特徴がどのように複合動詞に反映されるかを考察する。

2.1. 中国語の統語構造

中国語の統語構造は、動詞句においては、英語と同様に SVO 語順で動詞句の主要部である動詞が左にある。しかし、日本語と同様、副詞成分や、随意項である「介詞句」(前置詞句)は、動詞の前に位置し、さらに、名詞句においては、日本語と同様に「修飾部＋名詞」という語順で主要部名詞が右にある。こうした点で、中国語は、ちょうど英語と日本語の統語構造の特徴をあわせもつといえる。本節では、中国語の複合動詞の語順に関連する語順に焦点を絞って、中国語の統語構造の語順を紹介する。

まず、動詞の前に置かれる統語成分は、①主語、②副詞成分、③前置詞句が挙げられる。例を挙げよう。

(1)	他	去年	在	学校	很	认真地	学习。
	Ta	qu nian	zai	xuexiao	hen	renzhendi	xuexi
	彼	去年	～で	学校	とても	まじめに	勉強する
	└──┘	└──┘	└──┘		└──┘		
	主語	時間副詞	前置詞句		様態副詞		動詞

次に、動詞の後に置かれる統語成分は、①目的語、②補語(結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、数量補語)、③疑問、推量、勧誘等のモダリティを表す終助詞である。例を挙げると、以下の下線部が、動詞の後に置かれる成分である。

- (2) (目的語) 读 书
du shu
読む 本 「本を読む」
- (3) (結果補語) 读 书 读 得 很 累
du shu du de hen lei.
読む 本 読む DE とても 疲れる 「本を読んでとても疲れた」
- (4) (方向補語) 从 教室 走 出 来
cong jiaoshi zou chu lai.
から 教室 歩く 出て来る 「教室から出てくる」
- (5) (可能補語) 走 不 动
zou bu dong
歩く Neg. 動く 「歩けない」
- (6) (程度補語) 走 得 很 快
zou de hen kuai
歩く DE とても 速い 「歩くのがとても速い」
- (7) (数量補語) 走 了 两 次
zou le liang ci.
歩く Perfective 二回 「二回歩いた」
- (8) (終助詞) 走 了 吗?
zou le ma?
行く perfective 疑問終助詞 「行きましたか？」

中国語の統語構造において重要な位置を占めているのは、(3)から(7)に挙げた補語である。さらに、中国語の統語構造においては、「連動式」と呼ばれる動詞句が二つ重なる構造があり、動詞句と動詞句の間にはポーズがおかれず、また二つの動詞句の動作主は一致していなければならない。

- (9) (連動式) 他 喝 酒 喝 醉 了。
Ta he jiu he zui le.
彼 飲む 酒 飲む 酔う perfective 「彼は酒を飲んで酔った」

中国語の結果複合動詞は、歴史的に動詞の並列構造である「連動式」から発展してきた。梁(2007:73-103)によれば、「連動式」には、春秋戦国時代から、独立する二つの事象をおこった時間順に並べる型と、同義の二つの動詞を並べる[他動詞 V₁+他動詞 V₂+目的語]型がみられるという。例を挙げよう。

- (10) a. 扑灭 (撲滅する《尚书・盘庚上》)
 b. 战败 (卫师) (戦って～を負かす《左传・庄公二十八年》)
 c. 禁止 (事上帝鬼神) (禁止する《墨子・节葬下》)
 d. 刺杀 (之) (刺殺する《战国策・燕策三》)

太田(1958:206-208)によれば, こうした例は, V2 がまだ他動詞であり, 隋代以前には, <殺 sha>と<死 si>と同義の他動詞・自動詞のペアでは, 必ず, <殺 sha>が用いられて, 現代中国語の<殺死 sha-si>のように, V2 に<死 si>自動詞が用いられることはなかったという。例えば,

- (11) a. 見巨魚, 射殺一魚 (巨大な魚をみ, その一尾を射殺した《史記, 秦始皇本紀》)
 b. 拔刀刺殺解姊子 (刀をぬき解の姉の子を刺殺した《史記, 遊俠列傳》)
 c. 項梁已擊殺之 (項梁はすでにこれを撃ち殺した《史記, 李斯列傳》)

(10)(11)のような動詞の時間順の並列構造は, 六朝時代に入って, 自他両用の能格動詞から, 使役他動詞用法が脱落し始め, V1V2 という結果複合動詞へ発展していくにともない, 並列構造の V2 が非対格動詞へと固定化されるようになったという。連動式から結果複合動詞への歴史的変化は, Heine & Hunnemyer (1991)が指摘するように, 「事象の時間順並列」が「因果関係」を表す使役起動へと拡張していくという“TIME TO CAUSE metaphor”がみられる。

2.2. 中国語の複合動詞の構造と語順

本節では, 中国語の複合動詞全体像と, 全体像の中での結果複合動詞の位置づけを示す。湯 (1989:154-151) は, 中国語の複合動詞を, その内部構造から, 以下のように五分類している。下線をひいたものは, 使役起動交替をおこし, 起動自動詞用法と使役他動詞用法の両方を兼ねる能格動詞としての複合動詞である。

- (12) a. 「動詞+目的語」型 (Predicate-Object Type):
 种地 zhong-di (土地を耕す), 结婚 jie-hun (結婚する)
 充电 chong-dian (充電する), 动员 dong-yuan (動員する)
- b. 「動詞+結果補語」型 (Predicate-Complement Type):
 推开 tui-kai (押し開ける)
打破 da-po (力を加えて壊す/力が加わって壊れる)
喊哑 han-ya (叫びすぎて {声をからす/声がかれる})
- c. 「副詞+動詞」型 (Modifier-Head Type):
 迟到 chi-dao (遅刻する), 热爱 re-ai (熱愛する)
瓦解 wa-jie (ばらばらに崩す/ばらばらに分裂させる)

d. 「主語+述語」型 (Subject-Predicate Type) :

面熟 mian-shu (顔をよく知っている), 头疼 tou-teng (頭が痛い)

眼熟 yan-shu (よくみかける), 性急 xing-ji (性格がせっかちである)

e. 「並列型」(Coordinative Type) :

发展 fa-zhan (発展する/発展させる), 改变 gai-bian (変える/変わる)

成立 cheng-li (成立する/成立させる), 丰富 feng-fu (豊富である/豊富にする),

充实 chong-shi (充実する/充実させる)

まず、この五種類の複合動詞の語順をみると、全て2.1の(1)~(9)でみた中国語の句構造の語順と合致している。中国語の句構造と複合動詞の構造の関係は以下のようになる。

表1 中国語の複合動詞の構造と語順

	前項	後項	統語関係	例
1	動詞	目的語	動詞-目的語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 种地 zhong-di (土地を耕す) ・ 结婚 jie-hun (結婚する) ・ 充电 chong-dian (充電する) ・ 动员 dong-yuan(動員する)
2	動詞	結果補語	動詞-結果補語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推开 tui-kai (押し開ける) ・ <u>打破</u> da-po (力を加えて壊す/力が加わって壊れる) ・ <u>喊哑</u> han-ya (叫びすぎて {声をからす/声がかれる})
3	V2の副詞	動詞	副詞-動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 迟到 chi-dao (遅刻する), ・ 热爱 re-ai (熱愛する) ・ <u>瓦解</u> wa-jie (ばらばらに崩す/ばらばらに分裂させる) ・ <u>改组</u> gai-zu (～が改組する/～を改組する)
4	主語	動詞	主語-動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面熟 mian-shu (顔をよく知っている) ・ 头疼 tou-teng (頭が痛い) ・ 眼熟 yan-shu (よくみかける) ・ 性急 xing-ji (性格がせっかちである)
5	動詞1	動詞2	並列式	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>发展</u> fa-zhan (発展する/発展させる) ・ <u>改变</u> gai-bian (変える/変わる) ・ <u>成立</u> cheng-li (成立する/成立させる) ・ <u>丰富</u> feng-fu (豊富である/豊富にする) ・ <u>充实</u> chong-shi (充実する/充実させる)

この五種類の複合動詞のうち、中国語の複合動詞形成において最も卓越性を示し、生産性が高い結果複合動詞は、「動詞+結果補語」型の結果複合動詞であり、句構造における「連動式」に対応する型である。この型は、<-完 wan : ~終わる/終わる><-光 guang : ~尽くす/尽きる/きる><-遍 bian:~尽くす/回る><-尽 jin:~尽くす/尽きる/果たす><-惯 guan:~慣れる/つける><-厌 yan:~飽きる> <-够 gou:~飽きる>等、日本語の補文関係の複合動詞に対応することが多い。

次に、中国語の結果複合動詞は、事象構造と前項述語と後項述語の組み合わせという視点からみると、以下のように一般化される。

(13) 結果複合動詞の事象構造及び述語の組み合わせ

	前項述語 (V1)	+	後項述語 (V2)
a. 事象	原因事象又は先行事象		結果事象
b. 動詞	他動詞/非能格動詞 / 非対格動詞		非対格動詞 / 形容詞 ²

前項述語 V1 は、全ての種類の述語が担うことが可能である。一方、後項述語 V2 は、結果状態を表すために、ほとんどの場合、状態変化を表す非対格動詞または形容詞が担うが、例外的に、(14d)に示すように、<-会 hui> (～ができる)、<-懂 dong> (～を理解する) 等の状態を表す他動詞が担う場合もある。

最後に、中国語の結果複合動詞の V1 と V2 の動詞の特性と組み合わせについて、四種類の具体例を挙げよう。下線部を引いた複合動詞は、使役起動交替が起こる例である。

(14) a. 動作を表す他動詞 + {非対格動詞/形容詞}

喝醉 he-zui (飲んで酔ってしまう), 推开 tui-kai (押し開ける)

打破 da-po (力を加えて壊す/力が加わって壊れる)

b. 非能格動詞 + {非対格動詞/形容詞}

哭湿 ku-shi (泣いて {～を濡らす/～が濡れる})

喊哑 han-ya (叫びすぎて {声をからす/声がかれる})

坐直 zuo-zhi (座った結果、まっすぐである (まっすぐに座る))

c. {非対格動詞/形容詞} + {非対格動詞/形容詞}

累坏 lei-huai ({疲れて体が壊れる/疲れさせて体を壊させる})

醉倒 zui-dao ({酔って倒れる/酔わせて倒れさせる})

d. 動作を表す他動詞 + 状態を表す他動詞

学会 xue-hui (学んで、何かができるようになる)

听懂 ting-dong (聴いて理解する)

² 中国語においては、形容詞、非対格動詞の区別が明確ではない。例えば、<累 lei> (疲れる) は、形容詞につく程度副詞<很 hen> (とても) がついて<很累> (とても疲れている) といえるので形容詞として機能するのに対し、<我累了> (私は疲れた) は、非対格動詞とみなせる。

中国語の結果複合動詞の V1V2 の特性は、(15)のようにまとめられる。

(15) 中国語の結果複合動詞の V1V2 の特性

- a. V1 は、他動詞、非能格動詞、非対格動詞全てのタイプの動詞が生起する。
- b. V2 は、(14d)のような<会 hui><-懂 dong>等の状態他動詞を除き、ほとんどが「状態を表す {非対格動詞又は形容詞}」である。

3. 日本語の複合動詞の構造

3.1. 語彙的複合動詞と統語的複合動詞

影山(1993:74-97)では、日本語の複合動詞は、その統語的振る舞いの相違により、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二種類あり、(16)のように区別されるとしている。

(16) a. 語彙的複合動詞

飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、売り払う、受け継ぐ、解き放つ、飛び込む、(隣の人に)話しかける、こびり付く、飲み歩く、歩き回る、踏み荒らす、誉め讃える、語り明かす、聞き返す、震え上がる、呆れ返る、持ち去る

b. 統語的複合動詞

払い終える、話し終える、しゃべり続ける、食べすぎる、食べそこなう、助け合う、動き出す、食べかける、しゃべりまくる、走りぬく、数え直す、見なれる、登りきる、やりつける

影山(1993:74-97)の議論を要約すると、統語的複合動詞と語彙的複合動詞の区別は、以下表 2 のような意味的・統語的対比に基づく。

表 2 日本語の統語的複合動詞と語彙的複合動詞 (影山(1993:74-97)を筆者が要約)

	統語的複合動詞	語彙的複合動詞
	～終える、～続ける、～すぎる、 ～出す、～直す、～なれる、～きる	飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、 受け継ぐ、解き放つ、飛び込む
I.前項動詞 (V1) と後項動詞 (V2) の意味関係	・透明かつ合成的 ・V1 が V2 の目的語節の動詞となるような補文関係をなす	・意味の不透明化や語彙化 ・種々雑多な意味関係
II.生産性	・語彙的な結合制限 (他動性調和の原則) を受けない。	・語彙的な結合制限 (他動性調和の原則等) 有。 ・辞書への登録必要。
III.統語的操作	以下の統語操作が可能 ①代用 ②尊敬語化 ③受身化 ④サ変動詞による置換 ⑤重複	・左の①から⑤の統語的操作のいずれも適用不可能

3.2. 日本語の語彙的複合動詞の意味関係と対応する中国語の複合動詞

本節では、日本語の語彙的複合動詞の意味関係とその語順の類型について、中国語との対比から考察する。

影山(1993:113 -116)は、V1 と V2 が表す事象の時間関係という視点から、日本語の語彙的複合動詞の V1 と V2 の間の意味関係を、①「同時進行」及び②「V1 の表す事象（以降 E1 と表示）が V2 の表す事象（以降 E2 と表示）より先行する場合」に二分し、さらに、日本語の語彙的複合動詞の意味関係を「語彙概念構造」(Lexical Conceptual Structure, 以下 LCS と略称) を用いて、「並列関係」「付帯状況」「手段・様態」関係の三分類を提示している。

(17) 並列関係 (恋い慕う, 忌み嫌う, 泣き叫ぶ, 堪え忍ぶ, 恐れおののく)

V1 (恋い) + V2 (慕う) ⇒ LCS1 AND LCS2 (t1=t2)

(18) 付帯状況 (買い戻す, 言い渡す, 嘆き暮らす, 言い寄る, 降り注ぐ)

V1 (嘆き) + V2 (暮らす) ⇒ LCS2 WHILE LCS1 (t1=t2)

(19) 手段・様態 (押し倒す, 切り倒す, 掃き清める, 薙ぎ倒す, 張り倒す, 押し倒す)

V1 (押し) + V2 (倒す) ⇒ LCS2 BY LCS1 (t1 ≥ t2)

(t1 は, LCS1 の時間, t2 は LCS2 の時間を表す。“t1=t2” は LCS1 と LCS2 の同時性, “t1 ≥ t2” は LCS1 が LCS2 と同時に起こるか, 先行することを示す)

由本(1996)では、影山(1993:113 -116)の分析をさらに精密化し、日本語の語彙的複合動詞は、①並列関係、②付帯状況・様態、③手段、④因果関係、⑤補文関係の五種類に分類している。以下、この五種類の語彙的複合動詞について考察する。

3.2.1 並列関係の複合動詞

まず、並列関係の意味関係は、由本(2005:108)では、(20)のように形式化されている。

(20) 並列関係 (泣き叫ぶ, 忌み嫌う, 恐れおののく, 恋い慕う)

V1 (泣き) + V2 (叫ぶ) ⇒ [[LCS1] AND [LCS2]] (t1=t2)

由本(2005:111-112)は、並列関係の動詞の複合について、他動性、動詞の語彙的アスペクト、時空の共有に関して、全く同じタイプの類義語でなければ、並列関係の解釈が得られないとしている。

中国語の V1V2 複合動詞も同様に「並列関係」型が存在するが、日本語の並列型複合動詞と同様、非常に数が少なく、語彙化している。例えば、<哭喊 kuyan/哭叫 kujiao> (泣き叫ぶ), <嫌恶 xianwu/厌恶 yanwu> (忌み嫌う), <{恋 lian/爱 ai/思 si}慕 mu> (恋い慕う), <忍耐 rennai> (堪え忍ぶ), <希望 xiwang/希求 xiqiu> (請い願う) 等が挙げられるが、閉じられた語彙体系であるといえる。この点では、日本語の並列関係の複合動詞と同じである。

しかし、他動性に関しては、日本語の並列型複合動詞が、同じ他動性の動詞しか組み合わせることができないという他動性の制約があるのに対して、中国語の並列型複合動詞は、

以下に示すように、こうした他動性の制約が働かない場合がある。というのも、中国語は孤立語的特性を備えているため、形態を変えることなく、形容詞・自動詞・他動詞へと、品詞間や自動詞・他動詞の間で派生がおこるためである。

- (21) 发生 (fa-sheng, 発生する), 动摇 (dong-yao, 動揺する/動揺させる),
发展 (fa-zhan, 発展する/発展させる), 改变 (gai-bian, 変える/変わる),
停止 (ting-zhi, 停まる/停める), 成立 (cheng-li, 成立する/成立させる),
丰富 (feng-fu, 豊富である/豊富にする), 充实 (chong-shi, 充実する/充実させる)

(21)の中国語の並列型複合動詞の例では、<发生 (fasheng, 発生する)>が非対格動詞であるのを除き、下線をひいた箇所では、全て起動自動詞にも、使役起動他動詞にも用いられ、自他の形態的相違がない。

3.2.2. 付帯状況・様態の複合動詞

次に、付帯状況・様態の意味関係は、E1 が E2 の表す行為・変化進行の際の様態を表している。由本(2005:108)では、(22)のように形式化されている。

- (22) 付帯状況・様態 (持ち寄る, 遊び暮らす, すすり泣く, はい寄る)

$$V1 \text{ (持ち)} + V2 \text{ (寄る)} \Rightarrow \begin{array}{l} \text{[LCS2]} \\ \text{WHILE [LCS1]} \end{array} \left[\begin{array}{l} (t1=t2) \end{array} \right]$$

さて、付帯状況・様態型の複合動詞は、「持ち寄る, 這い寄る, 忍び寄る, 飲み歩く, 食べ歩く, 売り歩く, 探し回る, 聞き回る, 買い回る, 持ち去る, 飛び去る, 走り去る, 滑り降りる, 舞い降りる, 転げ落ちる, 舞い落ちる」等、移動に関わる V2 の様態を表す場合が多い。松本(1997:145)では、「移動の様態+方向性/経路位置関係」の組み合わせの複合動詞として、以下のようなリストを挙げている。

- (23) 「移動の様態+方向性」

- a. ~上がる：駆け上がる, 這い上がる, 舞い上がる, 跳ね上がる
- b. ~降りる：飛び降りる, 滑り降りる, 舞い降りる
- c. ~落ちる：滑り落ちる, 転がり落ちる, 流れ落ちる, 舞い落ちる
- d. ~戻る：駆け戻る, 舞い戻る

- (24) 「移動の様態+経路位置関係」

- a. ~出る：這い出る, 転がり出る, 飛び出る, 流れ出る
- b. ~出す：飛び出す, 逃げ出す
- c. ~込む：駆け込む, 飛び込む, 流れ込む
- d. ~回る：歩き回る, 走り回る, 駆け回る, 這い回る, 跳ね回る, 転がり回る,
- e. ~去る：走り去る, 飛び去る, 流れ去る

- f. ～着く：泳ぎつく，流れ着く
- g. その他：駆け抜ける，飛び越える，走り過ぎる

中国語においても、「移動の様態＋方向性/経路位置関係」の複合動詞は、「方向補語」として、非常に生産的に形成される。

(25) 「移動の様態＋方向性」

- a. ～上 (shang, ～上がる) :
 跑上 (paoshang, 駆け上がる), 爬上 (pashang, 這い上がる),
 {飞/飘}上 ({fei/piao}shang, 舞い上がる), 跳上 (tiaoshang, 跳ね上がる)
- b. ～下 (xia, ～降りる) :
 跳下 (tiaoxia, 飛び降りる), 滑下 (huaxia, 滑り降りる),
 {飞/飘}下 ({fei/piao}xia, 舞い降りる)
- c. ～落 (luo, ～落ちる) :
 滑落 (hualuo, 滑り落ちる), 滚落 (gunluo, 転がり落ちる),
 流落 (liuluo, 流れ落ちる), {飞/飘}落 ({fei/piao}luo, 舞い落ちる)
- d. ～回 (hui, ～戻る) :
 跑回 (paohui, 駆け戻る), {飞/飘}回 ({fei/piao}hui, 舞い戻る)

(26) 「移動の様態＋経路位置関係」

- a. ～出 (chu, ～出る) :
 爬出 (pachu, 這い出る), 滚出 (gunchu, 転がり出る),
 飞出 (feichu, 飛び出る), 流出 (liuchu, 流れ出る)
- b. ～出 (chu, ～出す) :
 飞出 (feichu, 飛び出す), 逃出 (taochu, 逃げ出す)
- c. ～进 (jin, ～込む) :
 跑进 (paojin, 駆け込む), 飞进 (feijin, 飛び込む), 流进 (liujin, 流れ込む)
- d. 到处 daochu V1/V1 来 lai V2 去 qu (～回る) :
 到处 daochu 走 zou / 走 zou 来 lai 走 zou 去 qu (歩き回る),
 到处 daochu 跑 pao / 跑 pao 来 lai 跑 pao 去 qu (走り回る / 駆け回る),
- e. ～开/走/去 (kai/zou/qu, ～去る) :
 跑{开/走/去} (pao{kai/zou/qu}, 走り去る), 飞{开/走/去} (fei{kai/zou/qu},
 飛び去る), 流{开/走/去} (liu{kai/zou/qu}, 流れ去る)
- f. ～到 (dao, ～着く) :
 游到 (youdao, 泳ぎつく), 流到 (liudao, 流れ着く)
- g. その他：～过/越 (guo/yue, ～抜ける / 越える / 過ぎる) 跑过 (paoguo, 駆け抜ける / 走り過ぎる), 飞{过/越} (fei{guo/yue}, 飛び越える)

(25)(26)の中国語の対応例をみると、(26d)の「歩き回る」タイプを除いて、以下のような整然とした V2 の日中語間の対応がみられる。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (27) a. ~上がる | →<~上 shang> |
| b. ~降りる | →<~下 xia> |
| c. ~落ちる | →<~落 luo> |
| d. ~戻る | →<~回 hui> |
| e. ~出る/出す | →<~出 chu> |
| f. ~込む | →<~進 jin> |
| g. ~去る | →<~开/走/去 kai/zou/qu> |
| h. ~着く | →<~到 dao> |
| i. ~抜ける/越える/過ぎる | →<~过/越 guo/yue> |

ここで注意すべき点は、「~回る」に対応する中国語の複合動詞が存在しないという現象である。これは、「~回る」が「あちこち V1 する」という行為のみを表し、「完結性」(telicity)をもたないからである。一方、(27)に挙げた V2 は、確かに方向や経路位置関係という意味を担っているが、事象の完結性を内包する「到達動詞」(achievement verb)でもあり、結果性を表している。これは、中国語の V1V2 複合動詞が、並列型を除いて、V2 に結果性が認識されないと、成立しないことが示唆される。

3.2.3. 手段の複合動詞

「手段」を表す意味関係は、由本(2005:108)では、(28)のように形式化されている。

- (28) 手段 (切り倒す, 吸い取る, 勝ち取る, 泣き落とす, 言い負かす)
- $$V1 \text{ (切り)} + V2 \text{ (倒す)} \Rightarrow \begin{array}{l} \text{LCS2} \\ \text{BY LCS1} \end{array} \left[\begin{array}{l} (t1 \geq t2) \end{array} \right]$$

中国語の結果複合動詞は、V2 はごくわずかの例外³を除き、非対格自動詞か形容詞に限られていて、日本語のように「手段」という意味を設定する必要性はない。例えば、日本語で「手段」型複合動詞は、中国語では以下の(29)のように V2 が非対格自動詞であり、実際には、次に述べる第四の型、「因果関係」の複合動詞に対応している。

- (29) 砍倒 kandaο (切り倒す), 踢倒 tidao (蹴り倒す), 喝 he{光 guang/干 gan/净 jing} (飲み切る, 飲み干す), 哭肿 kuzhong (泣き腫らす/泣き腫れる), 说倒 shuodao/驳倒 bodao/说服 shuifu (言い負かす)

³ <输 shu~に負ける, 赢 ying ~に勝つ, 会 hui ~ができる, 懂 dong~がわかる>といった限られた他動詞が V2 にくることがあるが、いずれも状態他動詞である。

(29) のような「手段」型 LCS は、日本語の形態統語論的な制約、即ち「他動詞+他動詞」又は「自動詞+自動詞」という組み合わせがデフォルトである、という形態統語の原則を反映した日本語の個別言語的な LCS であるといえよう。

3.2.4. 因果関係の複合動詞

「因果関係」を表す意味関係は、由本(2005:109)では、(30)のように形式化される。

$$(30) \text{ 因果関係 (遊びくたびれる, 泣きぬれる, 溺れ死ぬ, 焼け死ぬ, 流れ着く)}$$

$$V1 (\text{溺れ}) + V2 (\text{死ぬ}) \Rightarrow \text{LCS2} \quad \left[\begin{array}{l} (t1 \geq t2) \\ \text{FROM LCS1} \end{array} \right]$$

同じ「原因-結果」という意味関係をもつと考えられる「手段」の意味関係と異なる点は、V1 に LCS2 という結果をもたらす意図性がない、という点である。こうした場合に、「手段」の意味関係の LCS のように、BY という意味関数を使うのは適切ではないため、新たに意図性をもたない FROM という関数を用いている。中国語においては、V1V2 複合動詞の典型例で最も生産性が高い型が、この「因果関係」型となる。LCS1 が LCS2 の結果を意図していない中国語の複合動詞の例を日本語の対応する「因果関係」型の複合動詞と対応させながら挙げると以下ようになる。

- (31) a. 遊び疲れる 玩累 wanlei (遊んだ結果, 疲れる)
 b. 飲み潰れる 酔倒 zuido (酔って倒れる)
 c. 溺れ死ぬ 淹死 yansi (水に浸かって死ぬ)
 d. 抜け落ちる 脱落 tuoluo (抜けて落ちる)
 e. 焼け死ぬ 烧死 shaosi (焼いて死ぬ)

3.2.5. 補文関係の複合動詞

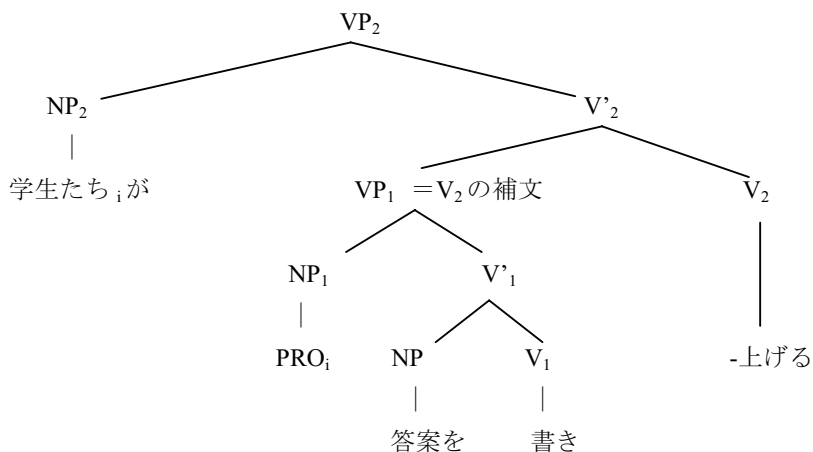
影山(1993:108-111)は、補文関係の意味関係をもつ語彙的複合動詞として、以下のような例を挙げている。

- (32) a. ~上げる/上がる (完了):
 歌い上げる, 洗い上げる, 鍛え上げる, 磨き上げる
 b. ~払う (完全にその状態にある):
 落ち着き払う, 酔っ払う, 出払う
 c. ~渡る (隅々まで及ぶ):
 響き渡る, 晴れ渡る, 澄み渡る, 知れ渡る, 鳴り渡る, 行き渡る, 冴え渡る
 d. ~違う (動作を間違える):
 聞き間違う, 掛け違う

- e. ～違う（動作が一致しない）：
入れ違う，行き違う，すれ違う
- f. ～逃がす（不成功）：
見逃す，取り逃がす
- g. ～止す（中途放棄）：
言い止す，食い止す，読み止す
- f. ～果たす（完遂）：
使い果たす，討ち果たす
- h. ～漏らす（失敗）：
書き漏らす，聞きもらす
- j. ～付く（着手）：
寝付く，居付く，住み付く
- k. ～落とす（不成功）：
言い落とす，書き落とす，聞き落とす，見落とす，釣り落とす，取り落とす
- l. ～交わす（動作のやりとり）：
言い交わす，呼び交わす，見交わす，酌み交わす，取り交わす
- m. ～習わす（習慣）：
言い慣わす，書き習わす，呼び習わす
- n. ～返る（完全にその状態になる）：
沸き返る，しょげ返る，静まり返る，呆れ返る
- o. ～頻る（事象の継続）：
鳴き頻る，降り頻る
- p. ～こなす（習熟）：
使いこなす，歌いこなす，着こなす，弾きこなす，読みこなす，乗りこなす

影山(1993:141-143)は、補文関係の複合動詞は、V2 が他動詞で目的語節を補文にとる場合と、V2 が意図性を含まない非対格動詞で主語節を補文にとる場合とで、異なる統語構造をもつとしている。例えば、他動詞構文「学生たちが答案を書き上げる」は、以下のような「他動詞型補文構造」をもつと想定される。

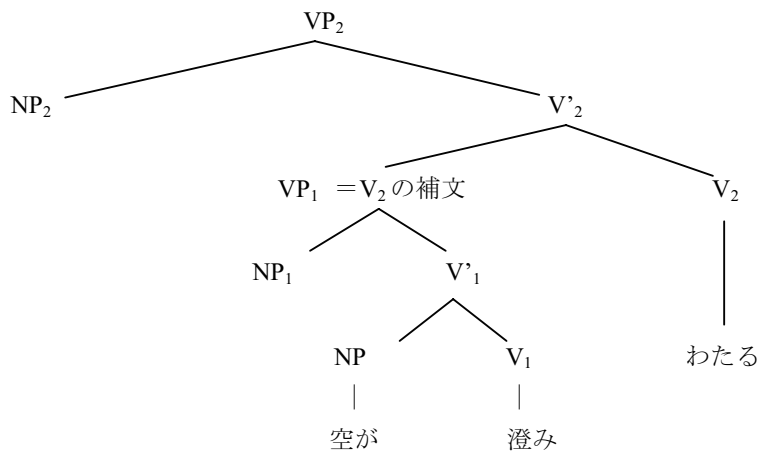
(33) 後項動詞が目的語補文をとる場合の句構造：他動詞型補文構造



(33)では、V₂「-上げる」は、「学生たち」という主語と、「学生たちが答案を書く」という目的語補文をとる構造となっている。

次に、主語節を補文にとる非対格自動詞構文「空が澄み渡る」は、(34)のような「非対格型補文構造」をもつと想定される。

(34) 後項動詞が主語補文をとる場合の句構造：非対格型補文構造



V₁「澄む」は非対格動詞であるため、その主語「空」は、その姉妹位置に生成すると想定されている。また、V₂「-わたる」も、非対格動詞であるため、その主語補文「空が澄む」は、その姉妹位置に生成する。

中国語においては、補文構造は複合動詞として具現化するだろうか？ 結論をいうと、LCS2 が結果事象として認識される場合に限ってのみ、[LCS2...[LCS1]...]というような補

文構造が中国語の複合動詞にも想定しうる。由本(2005)が挙げている日本語の補文関係の語彙的複合動詞を例にして考えると、(35)に示すように、中国語においても結果複合動詞が対応する場合が多い。

- (35) a. 鳴り渡る：响遍 xiang bian/响彻 xiang che b. 知れ渡る：传遍 chuan bian
 c. 見逃す：看漏 kan lou d. 書き落とす：写漏 xie lou
 e. 見落とす：看漏 kan lou
 f. 使い果たす：用尽 yong jin/用光 yong guang g. 呼び慣わす：叫惯 jiao guan

(35)の V2 部分は、以下に示すように、中国語においてはかなり生産力の強い結果複合動詞の V2 となる。

- (36) a. ～遍 bian：～ということがあまねく行き渡る
 b. ～漏 lou：～ということが抜け落ちている
 c. ～尽 jin：～ということをし尽くす
 d. ～光 guang：(あるものを使った)結果，あるものが少しも残っていない
 e. ～慣 guan：(ある行為の結果，その行為に)慣れる。

しかし、「読みかける」「読みさす」「読み続ける」など、アスペクトに関わる V2 で、事態全体が完結性をもたない場合は、中国語では複合動詞になることはできず、「読むことを始める」「途中まで読んでやめる」「読むことを続ける」というような動詞句としてしか表せない。なぜなら、中国語の複合動詞の典型として、V2 が結果事象を表す述語でなければならないという原則が働くからである。

3.2.6. 「先行事象－結果事象」の複合動詞

日本語の複合動詞の意味関係として、このほか「先行事象－結果事象」型がある。「～残す」「～残る」がその例である。松本(1998)は、「～残す」「～残る」を、「前項動詞が後項動詞の背景的情報を示し後項動詞が意味的主要部になる」タイプと述べている。対応する中国語を併記しながら具体例をみよう。

(37) V2 が「残存」の意を表す場合：

- a. 「～残す」： 食べ残す 吃剩下 chi sheng xia
 積み残す 装剩下 zhuang sheng xia
 やり残す 做剩下 zuo sheng xia
 b. 「～残る」： 売れ残る 卖剩下 mai sheng xia
 焼け残る 烧剩下 shao sheng xia
 消え残る 还没完全消失, hai mei wan quan xiao shi
 溶け残る 还没完全{融化 rong hua/溶化 rong hua}

「～残す」及び「～残る」は、V1 で表される行為又は非対格現象が起こった結果、対象が残って存在する、という意味を表す。例えば、「子供はご飯を食べ残した」は、「子供がご飯を食べる」という出来事を「残した」(未遂に終わった)という意味ではなく、「子供がご飯を食べた」結果として、「ご飯が残っている」という意味で、以下のような LCS が想定される。

(38) [[x_i] CONTROL[[x_i] EAT [y_j]] RESULT IN [[y_j] BE AT-LEFT]]

意味述語 RESULT IN は、LCS1 が先行事象で、偶発的な結果として LCS2 が連結されていることを示す。このタイプの LCS の合成を一般化して書くと、以下のようなになる。

(39) LCS1 RESULT IN LCS2 (t1 ≥ t2)

(39)は、先行事象と結果事象が、時間順に連結されることを表示している。

ここで、中国語との対比の上でもう一点、注目すべき点を挙げておきたい。中国語においても、結果複合動詞の V2 として生産性が高い動詞として、<～剩下 shengxia> (「残る」という自動詞に相当)がある。しかし、日本語の複合動詞と対応するのは、全て、V1 が他動詞のときのみである。「売れ(自動詞) + 残る(自動詞)」の組み合わせに対応するのは、<売 mai (他動詞) 剩下 shengxia (自動詞)>、「焼け(自動詞)+残る(自動詞)」に対応するのは、<焼 shao (他動詞) + 剩下 shengxia (自動詞)>であり、日本語では、V1 は他動詞である。V1 に非対格動詞が来る場合、例えば<*消 xiao (自動詞) + 剩下 shengxia (自動詞)> (消え残る) というような複合動詞は中国語では、できない。それは、中国語において、非対格事象を LCS1 にとり、RESULT IN で単純な時間的先行関係を以って連結するような合成が有り得ない、ということを示唆する。これは、中国語の結果複合動詞の典型的な概念類型が、以下のような使役状態変化型であることと深く関連する。

(40) 中国語結果複合動詞における典型：使役状態変化の語彙概念構造

[x ACT ON y] CAUSE [y BECOME [BE AT-z]]

さらに、中国語においては、「結果述語 V2 が叙述するのは、V1 の目的語(内項)である」という、「内項制約」が卓越しており、この「内項制約」(影山 2001:162, 「直接目的語制約」Simpson1983, Levin and Rappaport Hovav1995) が、V1 が非対格自動詞である場合を許さない要因と思われる。

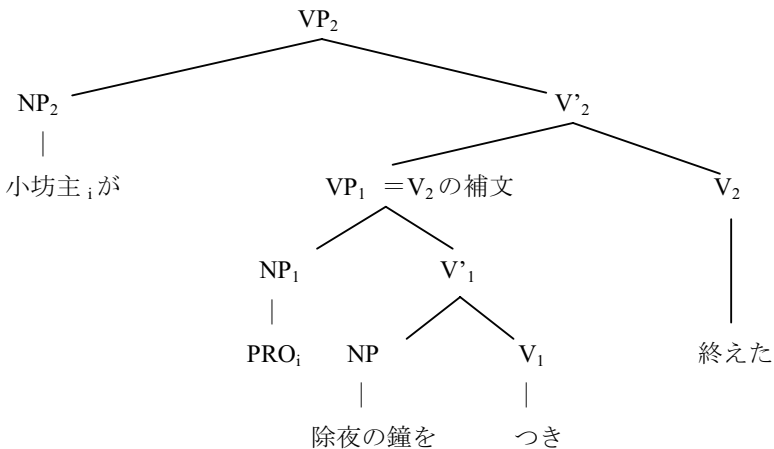
3.3. 日本語の統語的複合動詞

先に、語彙的複合動詞における補文関係の複合動詞を考察したが、影山(1993:96)は、統語的複合動詞は、すべて補文関係の複合動詞であるとして、以下のような例をあげている。

- (41) a. 始動：～かける，～だす，～始める
 b. 継続：～まくる，～続ける
 c. 完了：～終わる，～終わる，～尽くす，～きる，～通す，～抜く
 d. 未遂：～そこなう，～損じる，～そびれる，～しかねる，～遅れる，～忘れる，
 ～残す，～誤る，～あぐねる
 e. 過剰行為：～過ぎる
 f. 再試行：～直す
 g. 習慣：～つける，～慣れる，～飽きる
 h. 相互行為：～合う
 j. 可能：～得る

影山(1993:141-143)は、補文関係の統語的複合動詞は、語彙的複合動詞における補文関係と同様、V2 が他動詞で目的語節を補文にとる場合と、V2 が意図性を含まない非対格動詞で主語節を補文にとる場合とで、異なる統語構造をもつとしている。まず、「小坊主が除夜の鐘をつき終えた」は、以下のような「他動詞型補文構造」をもつと想定される。

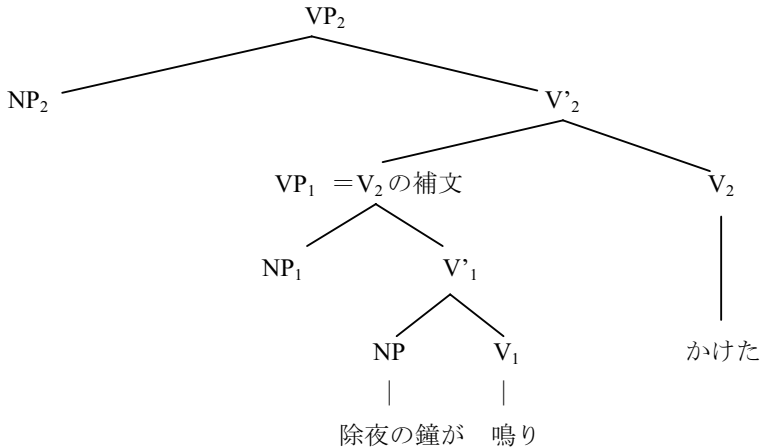
(42) 後項動詞が目的語補文をとる場合の句構造：他動詞型補文構造



(42)では、V2「～終わる」は、「小坊主」という主語と、「小坊主が除夜の鐘をつく」という目的語補文をとる構造となっている。

さらに、非対格自動詞構文「除夜の鐘が鳴りかけた」は、(43)のような「非対格型補文構造」をもつと想定されている。

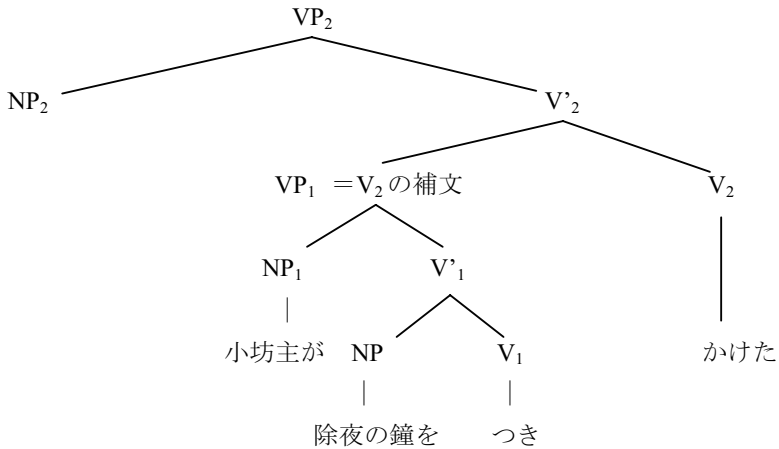
(43)



V₁「鳴る」は非対格動詞であるため、その主語「除夜の鐘」は、その姉妹位置に生成すると想定されている。また、V₂「-かける」も、非対格動詞であるため、その主語補文「除夜の鐘が鳴る」は、その姉妹位置に生成する。

また、「小坊主が除夜の鐘をつきかけた」も、「小坊主が除夜の鐘をつく」は他動詞文であっても、始動の意味のV₂「-かける」は、意図性を含まず、非対格動詞とみなせるため、(44)に示すように、(43)と同様の非対格型補文構造をとるとされる。

(44)



3.4. 日本語の複合動詞の構造と語順

以上、日本語の語彙的複合動詞及び統語的複合動詞の類型を考察したが、日本語の統語構造と複合動詞の語順の関連性という観点から捉えなおしてみると、次の表3のようにまとめられる。表3は、日本語の複合動詞には、日本語の統語構造を反映した語順以外に、時間順原則を反映した「因果関係」及び「先行－結果」関係の複合動詞が存在することも示している。

表3 日本語の語彙的複合動詞の構造と語順

		V1	V2	統語関係	意味関係
統語的語順	1	V2 の副詞成分	主動詞	副詞-動詞	1. 付帯状況・様態の複合動詞 持ち寄る, 飲み歩く, 探し回る, 聞き回る, 持ち去る, 滑り降りる, 転げ落ちる 2. 手段の複合動詞 切り倒す, 吸い取る, 勝ち取る, 泣き落とす, 言い負かす
	2	V2 の主語節	主動詞	主語節-動詞	3. 主語補文関係 ～かける, ～だす, ～過ぎる, ～得る
	3	V2 の目的語節	主動詞	目的語節-動詞	4. 目的語補文関係 ～終える, ～忘れる, ～誤る, ～直す, ～慣れる
時間順語順	4	V2 の原因事象	結果事象を表す		5. 因果関係 遊びくたびれる, 泣きぬれる, 溺れ死ぬ, 焼け死ぬ, 流れ着く
	5	V2 の先行事象	結果事象を表す		6. 「先行-結果」関係 ～残る/残す

4. 日本語の補文関係型複合動詞に対応する中国語の結果複合動詞

日本語において最も生産性が高く、卓越した複合動詞の類型は、補文関係の複合動詞であるが、中国語には補文関係の複合動詞が存在するのだろうか。結論を先に述べれば、中国語には、主語節を補文にとる「主語補文」型複合動詞は日本語と同様、存在するが、目的語節を補文にとる「目的語補文」型複合動詞は存在しない。日本語と中国語におけるこの相違は、日本語が OV 語順であるのに対して、中国語が VO 語順であることと深い関連がある。しかし注意すべき点は、中国語において「主語補文」型複合動詞が存在するといっても、結果複合動詞という性質をまず備えていなければならない、という点である。

4.1. 中国語における主語補文型結果複合動詞

中国語における主語補文型結果複合動詞には、意味的に、「評価」「完結性」「程度の極限」の三種類がある。まず、V2 が主語節に対する評価形容詞となる例を挙げる。

(45) 先行事象に対する評価⁴:

a. 「～誤る」

<-错 cuo> (～誤る), <-对 dui> (～が正しい) :

“有的问题他处理对了, 有的处理错了。”

「ある問題は、彼はきちんと処理したが、ある問題は、処理を誤った。」

b. 「～過ぎる」

<-多 duo/少 shao> (多過ぎる, 少なすぎる),

<-早 zao/晚 wan> (早すぎる, 遅すぎる),

<-长 chang/短 duan> (長すぎる, 短すぎる) :

“我因为起晚了, 所以没赶上汽车。”

「私は起きるのが遅かったので、バスに乗り遅れた」

c. 「～足りる」

<-够 gou> (～足りる, ～尽くす)

“这个老人尝够了没有文化的痛苦了。”

「この老人は教育を受けていない辛さを味わい尽くしている。」

(《汉语动词—结果补语搭配词典》:149)

次に、V2 が主語節に「完結性」を与える場合の例を挙げる。

(46) V2 が主語節に「完結性」を与える場合:

a. 「～終わる」

<-完 wan>

“我写完论文了。”「私は論文を書き終えた。」

b. 「～上げる/上がる」

<-好 hao>

“我们的旅程早已安排好了。”

「私たちの旅程は、とっくに組み上げてある。」

最後に、V2 が主語節に対して、完結性以外に、「程度の極限」に達しているという意味を与える場合の例を挙げよう。

⁴ 詹(2011)は、この評価型複合動詞を“主観評価型”結果複合動詞と呼んでいる。また、陸(1990, 2001)及び馬・陸(1997)は、「～過ぎる」に当たる中国語の評価型複合動詞を、「偏离义」(逸脱の意味)を持つ複合動詞として、<买贵 maigui>(買った結果、値段が高過ぎた)、<吃多 chiduo>(食べ過ぎる)、<来早 laizao>(来るのが早過ぎる)、<起晚 qiwan>(起きるのが遅過ぎる)、<挖浅 waqian>(掘った穴が浅過ぎる)等の例を挙げている。

(47) 「程度の極限」

a. 「～渡る」

<-遍 bian>

“这份广告传单在城里都传遍了。”

「この宣伝チラシは、街中に行き渡った。」

b. 「～尽くす」

<-尽 jin>

“他这一生受尽了各种苦难。”

「彼は生涯でさまざまな苦難を味わい尽くした。」

中国語においても、日本語と同様、主語補文型の結果複合動詞が存在する要因を考えると、いずれも、「主語＋述語」という語順の主述構造が複合動詞に反映されていることが示唆される。

4.2. 中国語における目的語補文型結果複合動詞

中国語は、日本語と同様、主語補文型の結果複合動詞が存在する一方で、目的語補文型複合動詞は存在しないように思われる。以下、日本語の目的語補文型複合動詞が中国語ではどのように表されるかについて考察してみよう。

例えば、始動、継続、未遂、再試行を表す目的語補文型複合動詞は、中国語においては、(48)に示すように、[_{VP}V2+[_{IP} …V1…]]という目的語節をとる動詞句か、[_{IP} 没能 [_{VP}…V1…]]のように過去の不可能な事態を表す助動詞文に対応し、複合動詞には対応していない。

- | | | |
|----------------|------------------------------|--------------------------|
| (48) a. 「～始める」 | ([_{VP} 开始 kaishi | [_{IP} …V1 …]]) |
| b. 「～続ける」 | ([_{VP} 继续 jixu | [_{IP} …V1 …]]) |
| c. 「～損なう/損ねる」 | ([_{IP} 没能 mei neng | [_{IP} …V1 …]]) |
| d. 「～忘れる」 | ([_{VP} 忘了 wan le | [_{IP} …V1 …]]) |
| e. 「～直す」 | ([_{VP} 重新 chongxin | [_{IP} …V1 …]]) |

ここで、一見目的語補文をとるようにみえる<-定 ding>という複合動詞を考えたい。

- (49) a. 这本书我是用定了，你找别的书吧。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
「この本は、私が使うことに決めたから、他の本を探して。」
- b. 这个角色我演定了，谁也别跟我抢。(《现代汉语述补结构用法数据库》)
「この役柄は、演じることに決めたわ、誰も奪うことはできない。」

<-定 ding>は、日本語に翻訳すると、「～することを決めた」という意味になり、目的語補文をとるようにみえる。しかし、中国語の結果複合動詞は、V2 に<-懂 dong わかる>、<-会 hui 習得する>といった状態他動詞を例外的にとる以外は、基本的に非対格動詞又は形容詞

しかとすることができないという事実から考えると、<定 ding>は、「～することになっている」という意味であり、主語補文をとる結果複合動詞と分析される。

では、中国語はなぜ目的語補文をとる複合動詞がないのだろうか？例えば、「書き忘れる」に対応する中国語として、なぜ<*忘写 wangxie, [忘れる+書く]>という複合動詞という複合動詞が不可能なのだろうか？

その理由として、第一に、中国語においては、事象を時間順の語順で複合動詞を形成する因果関係型、或いは「先行-結果」語順型が、優先順位が最も高い複合動詞の型であることが挙げられる。第二に、中国語では、動詞の後置成分として、目的語以外に、補語（結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、数量補語）が置かれるという統語的要因が挙げられるであろう。以下に示すように、目的語と補語が共起する場合、動詞の後ろに隣接する位置に来るのは補語であり、目的語は、<把 ba～>という目的語を前置する前置詞を伴って動詞の前に移動し、動詞直後の位置を補語に譲るという現象がある。

- (50) a. 把 事情 办 完。
ba shiqing ban wan.
BA 用事 行う 終わる
「仕事をやり終える」
- b. 把 他 叫 进来
ba ta jiao jinlai
BA 彼 呼ぶ 入ってくる
「彼を呼んで入らせる」
- c. 把 话 又 说 了 一遍
ba hua you shuo le yibian.
BA 話 また 話す perfective 一度
「話をもう一度した」

中国語においては、目的語と補語が共起する場合、<‘把 ba’ 目的語+動詞+補語>という語順となり、目的語よりも補語のほうが動詞の後に置かれる優先順位が高いという現象があるのである。これは、OV 語順、主要部右側型の日本語では起こり得ない現象である。こうした中国語の目的語に関わる現象が、目的語補文をもつ複合動詞が存在しないことと深く関わっていることが示唆される。

5. 語順からみた日本語と中国語の複合動詞

日本語と中国語の複合動詞の語順には、並列型を除き、二種類の原則がある。第一の原則は、「句構造における語順が、複合動詞の語順にそのまま反映される」という「句構造と語構造の一致原則」である。第二の原則は、「事象の起こった順に動詞を並べる」という、時間順と語順の間にみられる「表象性」(iconicity)に帰結される「時間順原則」(Tai 1985)である。

日本語も中国語も、複合動詞の語順には、両方の原則が働いている。日本語においては、「句構造と語構造の一致原則」が最も卓越性をもつ一方で、中国語においては、「時間順原則」が最も卓越性をもつ。

中国語において「時間順原則」が「句構造と語構造の一致原則」よりも卓越性をもつという特徴を最も端的に示す例は、補文関係をもつ結果複合動詞の語順においてみられる。例えば、<膩吃 chini 食べ飽きる>、<跳烦 tiaofan 踊り飽きる>、<穿惯 chuan'guan はき慣れる>は、前項述語が表す事象が時間的に先に起こり、後項述語が表す事象が時間的に後に起こる結果事象である。

中国語の動詞句は、VO 型語順で主要部が左にあるから、動詞句の主要部と補文の語順が、複合動詞にも反映されるのであれば、複合動詞の語順は、<*膩吃 nichi 食べることに飽きる>、<*烦跳 fantiao 踊ることに飽きる>、<*惯穿 guanchuan 履くことに慣れる>のように、補文を表す部分が後に来るはずである。これは、例えば「返事を出し忘れた」は、中国語では、複合動詞で表現不可能なため、[_{vp} 忘 wang 了 le [_{ip} 回信 huixin]]と、「動詞+目的語節」の語順で表すしかないことから予測できる。しかし、実際には、<吃膩 chini 食べ飽きる>、<穿惯 chuan'guan はき慣れる>、<跳烦 tiaofan 踊り飽きる>では、動詞句の語順が複合動詞の語順を決めているのではなく、時間順が複合動詞の語順を決めていることになる。

日本語の動詞句は、OV 型語順で、主要部が右にあり、統語的にも「目的語補文+主要部動詞」という語順となるが、こうした統語的語順が、複合動詞にも反映され、時間順にとらわれない多様な補文関係の複合動詞を形成するのである。

日本語と中国語における句構造及び複合動詞の語順原則と原則の優先順位について対比させて本稿の結論とする。

表4 日本語と中国語における句構造, 複合動詞の構造と語順原則

	日本語	中国語
1. 動詞句の構造	1. OV 語順 2. 動詞句： 主要部右 動詞の後に結果述語は 許されない。	1. VO 語順 2. 動詞句： 主要部左 動詞の後に結果述語が おかれる。
2. 複合動詞の語順原則の優先順位	1. 「句構造と語構造の一致原則」 →補文関係の複合動詞が卓越 e.g. 「書き忘れる」 「早過ぎる」 2. 「時間順原則」 e.g. ・因果関係：溺れ死ぬ ・先行-結果関係：食べ残す 売れ残る	1. 「時間順原則」 結果複合動詞の卓越性 e.g. <吃膩 chini 食べ飽きる> <穿慣 chuan'guan はき慣れる> →目的語補文型複合動詞は 存在しない。 *膩吃 nichu 食べることに飽きる *慣穿 guanchuan 履くことに慣れる 2. 「句構造と語構造の一致原則」 目的語補文型はないが, 主語補文型 は存在する。 e.g. <錯 cuo, ~誤る> <多 duo, 多過ぎる> <少 shao, 少なすぎる> <完 wan, ~終わる> <遍 bian, ~渡る>

日本語参考文献

- 影山太郎(1993) 『文法と語形成』, ひつじ書房.
 太田辰夫(1958) 『中国語歴史文法』, 江南書院.
 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」, 『言語研究』114 : 37-83.
 望月圭子 (1990) 「日・中両語の結果を表す複合動詞」, 『東京外国語大学論集』40 : 13 - 27.
 望月圭子 (2006) 「補文関係をもつ VV 型複合動詞—日本語と中国語の対照から—」, 『言語情報学研究報告』No.11 : 51 - 68. 東京外国語大学大学院地域文化研究科.
 望月八十吉 (1992) 「日・中両国語における能格的表現」, 大河内 康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』, 49-67, くろしお出版.
 申亜敏, 望月圭子 (2009) 「中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語結果構文

- との比較から」, 小野尚之編『結果構文のタイポロジー』407-450. ひつじ書房.
- 申亜敏 (2009) 『中国語結果複合動詞の意味と構造—日本語の複合動詞・英語の結果構文との対照及び類型的視点から—』, 東京外国語大学 博士論文.
- 由本陽子(1996) 「語形成と語彙概念構造」, 奥田博之教授退官記念論文集刊行会編『言語と文化の諸相』: 105 - 118,英宝社.
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』, ひつじ書房.

外国語参考文献

- Heine, Claudi & F.Hunneymeyer (1991) *Grammaticalization: A Conceptual Framework*. Chicago: University Press.
- 马真・陆俭明 (1997) <形容词作结果补语情况考察>,《汉语学习》.1997年 1,4,6期.
- Mochizuki, Keiko (2007) “Patient-Orientedness in Resultative Compound Verbs in Chinese.”, Yuji KAWAGUCHI (et al.), *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. p.267-280. Amsterdam/Philadelphia: JohnBenjamins Publishing Company.
- Levin, Beth, and Malka Rapaport Hovav (1995) *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*, Cambridge: MIT Press.
- 梁银峰 (2007) <论汉语动补复合词的词汇化过程> (『中国語動詞-補語複合語の語彙化過程』) 上海: 学林出版社.
- 陆俭明 (1990) <“VA了”述补结构语义分析>,《汉语学习》.1990年第1期.
- 陆俭明 (2001) <“VA了”述补结构语义分析补义>,《汉语学习》.2001年第6期.
- Simpson, Jane (1983) “Resultatives”, L. Levin et al.(eds.) *Papers in Lexical-Functional Grammar*, 143-157. Indiana University Linguistics Club.
- Tai, James H-Y. (1985) “Temporal sequence and Chinese word order”, In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*:49-72, Amsterdam and Philadelphia : John Benjamins.
- 湯 廷池 (1989) 「詞法與句法的相關性：漢,英,日三種語言複合動詞的對比分析」,『漢語詞法句法續集』, 147-211, 臺灣學生書局.
- 詹卫东 (2011 近刊) <复合事件的语义结构与现代汉语述结式的成立条件分析>,《词·语界面 - 前沿研究及应用》, 北京大学出版社.

使用コーパス

- 《汉语动词-结果补语搭配词典》1987. 王砚农・焦群・庞颢编. 北京语言学院出版社.
- 《现代汉语述补结构用法数据库》2009. <http://ccl.pku.edu.cn/vc/>